

卵巣癌の検査

について

日本臨床検査専門医会
末広 寛



■卵巣癌とはどのような病気ですか？

卵巣は下腹部、子宮の両わきにひとつずつあります。この卵巣に癌ができた場合を卵巣癌といいます。症状がないことも多く「沈黙の臓器」とも呼ばれています。

■婦人科で卵巣のう腫といわれました。私は卵巣癌なのですか？

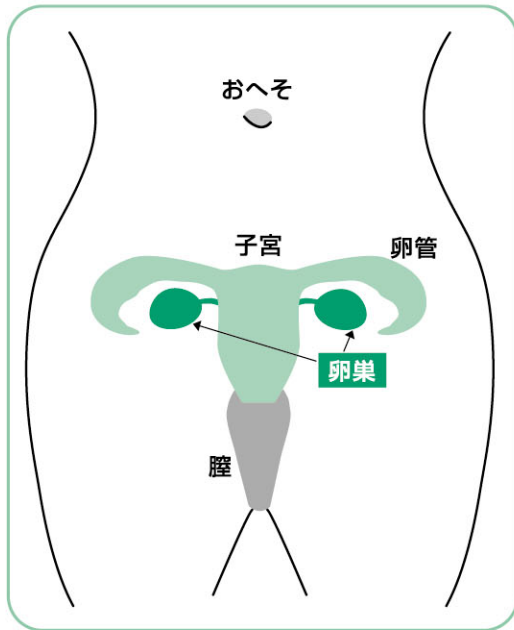
卵巣のう腫は卵巣に液体が貯まって大きくなった（腫れている）状態をいい、ほとんどの場合は良性です。卵巣が腫れている場合は色々な検査を行い、悪性（癌）か良性（癌でない）かを調べていきます。

■どんな検査が行われるのですか？

まずは超音波（エコー）検査が行われます。また、血液から腫瘍マーカー（癌があるかどうかの目安となる検査）と呼ばれる検査も行われます。さらに詳しい検査が必要な場合は、CT（X線で体の断面像を撮影する方法）、MRI（磁気を使って体の断面像を撮影する方法）といった検査が行われます。

■卵巣癌になりやすい年齢は？

卵巣癌のタイプによって卵巣癌になりやすい年齢が異なります。20～30歳



代に多いタイプ（胚細胞腫瘍）と、40～60歳代に多いタイプ（上皮性腫瘍）があります。

■卵巣癌の危険因子ってあるのですか？

比較的可能性の高いものとして①結婚、妊娠、出産経験がない、②卵巣癌の家系、③脂肪分の多い食事の摂取、などが挙げられます。生活様式の洋風化に伴い、卵巣癌は増加しています。

また、乳癌や子宮内腺癌（子宮体癌）の家系も卵巣癌の危険因子といわれています。

■卵巣癌ってどんな症状が出るのですか？

症状としては、ウエストサイズが増える、下腹が痛む、たびたびおしっこに行きたくなる、などです。ただし冒頭でも述べたように「症状がないことが多い」というのも卵巣癌の特徴です。卵巣は下腹の奥深くにあり、少しくらい大きくなってても症状が出づらいのです。言い換えると卵巣癌はかなり大きくならないと症状がでてこないため、症状がでてきた場合は癌がすでに進行していることが多いのです。

■手遅れにならないうちに卵巣癌を見つけるためにはどうしたら良いのですか？

早めに見つかれば90%前後の患者さんは治ります。早期発見・早期治療のために、まずは定期的な（最低1年に1回）婦人科検診を受けることをおすすめします。また、急にウエストサイズが増えてきたときも、念のため婦人科を受診してください。